

2025 年度（令和 7 年度）

シラバス

柔道整復学科 昼間部

履正社国際医療スポーツ専門学校

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	総合栄養学	講師名	下村有佳里		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	基礎分野
講義目的	栄養を基礎から理解し、幅広い世代、様々な状況に置かれている対象者の食生活について考えることを目的とする。柔道整復師としてからだへのアプローチをする中でからだの基本である食事についてあわせてアドバイスができるようになる。				
到達目標	世の中にあふれる栄養の知識を正誤を判断し、対象者にとって必要な情報を提供できるようになることを目標とする。				
テキスト	講談社 栄養科学シリーズNEXT 運動・スポーツ栄養学第4版				
参考文献	講談社 栄養科学シリーズNEXT 応用栄養学第6版				
評価基準	評価試験60%、小テスト20%、発表・レポート20%				
履修上の注意	講義の際にパソコンまたはタブレットを使用します。				
備考					

講義計画			成果確認
1 講義内容	ガイダンス		小テスト
到達目標	本授業で学ぶことを理解する		
2 講義内容	栄養の基礎(バランスの良い食事とは、五大栄養素について)		小テスト
到達目標	自分の食事を評価できるようになる		
3 講義内容	糖質、脂質、たんぱく質の働き		小テスト
到達目標	栄養素の理解、どういった食品に多く含まれているかを知る		
4 講義内容	ビタミン、ミネラルの働き		小テスト
到達目標	栄養素の理解、どういった食品に多く含まれているかを知る		
5 講義内容	ライフステージ別栄養(妊娠期・授乳期)		小テスト
到達目標	どのような栄養学的問題がおこり、食事でどう対処すべきか学ぶ		
6 講義内容	ライフステージ別栄養(乳児期、幼児期)		小テスト
到達目標	どのような栄養学的問題がおこり、食事でどう対処すべきか学ぶ		
7 講義内容	ライフステージ別栄養(学童期・思春期)		小テスト
到達目標	どのような栄養学的問題がおこり、食事でどう対処すべきか学ぶ		
8 講義内容	ライフステージ別栄養(成人期、更年期)		小テスト
到達目標	どのような栄養学的問題がおこり、食事でどう対処すべきか学ぶ		
9 講義内容	ライフステージ別栄養(高齢期)		小テスト
到達目標	どのような栄養学的問題がおこり、食事でどう対処すべきか学ぶ		
10 講義内容	スポーツと栄養		小テスト
到達目標	スポーツ栄養の意義について理解する		
11 講義内容	スポーツと栄養と栄養(試合前の食事について)		小テスト
到達目標	試合前の食事にアドバイスができるようになる		
12 講義内容	スポーツと栄養(遠征・合宿の際の食事について)		小テスト
到達目標	遠征・合宿時の食事にアドバイスができるようになる		
13 講義内容	栄養学演習(テーマに沿った資料作成①)		作成資料の進捗状況
到達目標	グループで、発表資料を作成するための情報収集		
14 講義内容	栄養学演習(テーマに沿った資料作成②)		作成資料の進捗状況
到達目標	情報をまとめ、対象者にわかりやすいように資料作成を行う		
15 講義内容	栄養学演習(テーマに沿った資料作成③、発表)		作成資料の発表内容
到達目標	対象者に講義することを想定した発表ができるようになる		

2025(令和7) 年度 講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位		
科目名	総合心理学		講師名	齊藤 雅子				
			実務経験					
実務内容								
講義形態	講義	学期	前期	分野	基礎分野			
講義目的	日常生活場面において体験した事象を心理学的な視点に照らし合わせて学ぶこと、スポーツや臨床の場面における心理学的視点を学ぶことで、対人援助職従事者としての心構えやスポーツ選手・患者との関係性の理解を深めることを目的とする。							
到達目標	日常生活での自分自身の体験・経験を心理学的な理論に照らし合わせて理解する。							
テキスト								
参考文献	「これから学ぶ スポーツ心理学 三訂版」荒木雅信・山本真史 大修館書店 「臨床心理学入門」岩壁茂ほか 有斐閣アルマ 「医療行動科学のためのミニマム・サイクロジー」山田富美雄 北大路書房							
評価基準	定期試験(70%)、課題提出(20%)、授業内容等に関する参加状況(10%)							
履修上の注意	授業に積極的に参加しよう							
備考								

講義計画			成果確認
1	講義内容	心理学とは	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	科学的心理学を理解する	
2	講義内容	学習(古典的条件づけと道具的条件づけ)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	学習方法についての認識	
3	講義内容	記憶と知覚	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	記憶のメカニズムと物事に対する認知を知る	
4	講義内容	動機づけと感情	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	動機づけと行動や感情との関係性を理解する	
5	講義内容	こころの発達	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	胎児期～老年期のこころの発達を理解する	
6	講義内容	パーソナリティ	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	パーソナリティの形成や諸相を理解する	
7	講義内容	社会心理学(自己理解・他者理解)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	自己理解・他者理解についての認識	
8	講義内容	社会心理学(集団)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	集団においてみられる現象についての認識	
9	講義内容	臨床心理学とは	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	臨床心理学について理解する	
10	講義内容	精神分析療法	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	精神分析療法について理解する	
11	講義内容	行動療法・認知療法	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	行動療法・認知療法について理解する	
12	講義内容	認知行動療法	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	認知行動療法について理解する	
13	講義内容	カウンセリング	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	クライエント中心療法について理解する	
14	講義内容	ストレスマネジメント	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	ストレスやストレスマネジメントについて理解する	
15	講義内容	まとめ	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	心理学についての振り返り	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	基礎演習A(ソーシャルフィールドワーク)	講師名	篠浦 達智／竹内希美子		
実務内容					
講義形態	演習	学期	通年	分野	基礎分野
講義目的	将来、柔道整復師として医療介護健康福祉関連あんどが実践および研究発表されている現状を学習フィールドとして、座学で学んだ理論を検証、研究する能力と集団組織の中での自らの活躍の仕方を身に付ける。				
到達目標	知的好奇心を高揚させ、研究心を身に付ける、チームアプローチ・チームビルディングを理解し実践できる。				
テキスト	オリエンテーション時に配布				
参考文献	オリエンテーション時に配布				
評価基準	研修記録簿の評価 70% プレゼンテーション 10% 授業貢献度 10% リポート 10% 合計100点満点で評価する。				
履修上の注意					
備考					

講義計画			成果確認
1	講義内容	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク①	研修記録簿の提出
	到達目標		
2	講義内容	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク②	研修記録簿の提出
	到達目標		
3	講義内容	具体的集団活動と共同、応用チームアプローチとビルディング① フレッシュセミナー	研修記録簿の提出
	到達目標	集団活動を通じて、時間、約束事を守ることができる	
4	講義内容	具体的集団活動と共同、応用チームアプローチとビルディング② フレッシュセミナー	研修記録簿の提出
	到達目標	集団活動を通じて、時間、約束事を守ることができる	
5	講義内容	具体的集団活動と共同、応用チームアプローチとビルディング③ フレッシュセミナー	研修記録簿の提出
	到達目標	集団活動を通じて、多くの人とコミュニケーションをとることができる	
6	講義内容	具体的集団活動と共同、応用チームアプローチとビルディング④ フレッシュセミナー	研修記録簿の提出
	到達目標	集団活動を通じて、多くの人とコミュニケーションをとることができる	
7	講義内容	公益社団法人 大阪府柔道整復師会学術大会の聴講①	研修記録簿の提出
	到達目標	学術大会を通じ、多くの知見を広げる	
8	講義内容	公益社団法人 大阪府柔道整復師会学術大会の聴講②	研修記録簿の提出
	到達目標	学術大会を通じ、多くの知見を広げる	
9	講義内容	医療介護福祉に関する講義を聴講 校内学術大会(特別講演)	研修記録簿の提出
	到達目標	学術大会を通じ、多くの知見を広げる	
10	講義内容	卒業研究発表、運営、聴講 校内学術大会(卒論発表)	研修記録簿の提出
	到達目標	学術大会を通じ、多くの知見を広げる	
11	講義内容	他学科チームアプローチとビルディング 体育祭	研修記録簿の提出
	到達目標	チームワークの形成と協力ができる	
12	講義内容	公益社団法人 日本柔道整復師会近畿学会の聴講①	研修記録簿の提出
	到達目標	学術大会を通じ、多くの知見を広げる	
13	講義内容	公益社団法人 日本柔道整復師会近畿学会の聴講②	研修記録簿の提出
	到達目標	学術大会を通じ、多くの知見を広げる	
14	講義内容	集団組織の中での自らの活躍の仕方 グループワーク、ワールドカフェ	研修記録簿の提出
	到達目標	自らの意見を、発現することができる	
15	講義内容	フィードバック面談	研修記録簿の提出
	到達目標	1年間の中で得た、経験や知識の振り返り 感想や反省を行う	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	基礎演習D		講師名	桃井 俊明	
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	基礎分野
講義目的	医学教育になれるための基礎学力の習得。および興味を持たせる				
到達目標	自学自習できる力を養う				
テキスト	なし				
参考文献	なし				
評価基準	各回における課題による総合評価				
履修上の注意	chromebookを持参すること				
備考					

講義計画			成果確認
1	講義内容	講義ガイダンスおよびアイスブレイク	課題によって確認
	到達目標	柔整学生生活に慣れる	
2	講義内容	医学教育を受けてみての感想・課題	課題によって確認
	到達目標	医学教育に慣れる	
3	講義内容	勉強方法について(復習の仕方)	課題によって確認
	到達目標	医学教育に慣れる	
4	講義内容	なぜ勉強するのか(足関節捻挫を診るために必要な能力)	課題によって確認
	到達目標	学ぶ目的を知る	
5	講義内容	計画と実行	課題によって確認
	到達目標	計画の重要性と、時間管理の大切さを学ぶ	
6	講義内容	触診① 鎖骨周辺	課題によって確認
	到達目標	医療に興味を持ち、柔道整復師になるモチベーションを上げる	
7	講義内容	触診② 肩甲骨周辺	課題によって確認
	到達目標	医療に興味を持ち、柔道整復師になるモチベーションを上げる	
8	講義内容	触診③ ローテーターカフ	課題によって確認
	到達目標	人を触ることに慣れる	
9	講義内容	触診④ 肩関節について	課題によって確認
	到達目標	人を触ることに慣れる	
10	講義内容	各教科の確認	課題によって確認
	到達目標	勉強意欲の向上	
11	講義内容	グループワーク	課題によって確認
	到達目標	勉強意欲の向上	
12	講義内容	触診⑤ 腰～股関節	課題によって確認
	到達目標	人を触ることに慣れる	
13	講義内容	触診⑥ 腰～股関節	課題によって確認
	到達目標	人を触ることに慣れる	
14	講義内容	ストレッチング	課題によって確認
	到達目標	人を触ることに慣れる	
15	講義内容	振り返りと生理学	課題によって確認
	到達目標	計画性の大切さと時間管理の大切さを再確認する	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	基礎演習E(ビジネスイノベーション)		講師名	竹内 希美子		
実務内容	クリニックにて柔道整復師として臨床					○
講義形態	演習	学期	後期	分野	基礎分野	
講義目的	アロマオイル(精油)の正しい知識を身に付け 日常生活および、臨床現場で活用できる知識と技術を会得する。					
到達目標	アロマテラピーの知識を活かし、生活や仕事の一部に活用できる					
テキスト	毎時限 資料を配布					
参考文献	アロマテラピーコンプリートbook 上下巻 BABジャパン					
評価基準	課題遂行評価 授業貢献度					
履修上の注意	実技を行う場合は、フェイスタオルかバスタオルを持参 肌の弱い人やナツツアレルギーがある方は事前に申し出る					
備考						

講義計画			成果確認
1	講義内容	精油学(基礎)	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	精油の特性と危険性を理解する	
2	講義内容	基材論 実践①	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	植物油の種類や酸化度を説明できる	
3	講義内容	基材論 実践②	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	植物油の種類や特性について説明できる	
4	講義内容	精油学(応用)	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	精油の効果効能について説明できる	
5	講義内容	精油学(高等)	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	数種類をブレンドし、調香することができる	
6	講義内容	基材論 実践③	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	用途に合わせた、基材を選択できる	
7	講義内容	基材論 実践④	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	精油、基材を合わせた用品を作ることができる	
8	講義内容	トリートメント理論①	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	基礎の手技を理解する	
9	講義内容	トリートメント理論②	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	基礎の手技を理解する	
10	講義内容	コンサルテーション実践①	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	クライアントとの対話方法について理解する	
11	講義内容	ベットメイキング、タオルワーク	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	ベットメイキングやタオルの使い方を理解する	
12	講義内容	コンサルテーション実践②	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	模擬クライアントを相手に実践できる	
13	講義内容	トリートメント実践①(上肢)	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	手や体の使い方を理解する	
14	講義内容	トリートメント実践②(下肢後面)	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	手や体の使い方を理解する	
15	講義内容	トリートメント実践③(下肢前面)	終了時の質疑応答にて確認
	到達目標	手や体の使い方を理解する	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学 I		講師名	井上敬夫		
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	図表、写真を用いて、名称だけでなく機能も説明することによって理解度を高める。 国家試験にも対応できるように過去問の解説も行っていく。					
到達目標	名称を暗記するだけでなく、実際の配置をイメージでき、その機能を含めて説明できる。					
テキスト	解剖学・第3版(医歯薬出版)					
参考文献						
評価基準	試験 80% 小テスト 20%					
履修上の注意	授業時に配付される資料と教科書を毎度持参すること					
備考						

講義計画			成果確認
1 講義内容	解剖学の意義、解剖学の分類、解剖学用語		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
2 講義内容	細胞と細胞小器官		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
3 講義内容	組織(上皮組織、支持組織[結合組織など])		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
4 講義内容	組織(支持組織[血液など]、筋組織)		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
5 講義内容	発生		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
6 講義内容	器官系統		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
7 講義内容	人体の区分		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
8 講義内容	体表解剖(骨格系)		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
9 講義内容	体表解剖(筋系)		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
10 講義内容	体表解剖(脈管系)		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
11 講義内容	体表解剖(神経系)		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
12 講義内容	体表解剖(目、耳、鼻、口)		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
13 講義内容	体表解剖(外皮、生体計測)		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
14 講義内容	映像解剖(診断用X線、CTスキャン)		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
15 講義内容	映像解剖(MRI、サーモグラフィー)		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学Ⅱ<骨学>		講師名	上田 裕一		
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	柔道整復師として最低限必要なレベルの骨学を習得する。特に骨の各部位の名称や関節の構造、人体などについて理解する。					
到達目標	骨の名称が理解できる 骨の各部位の名称が理解できる 骨の連結の種類、関節運動が理解できる 関節の構造、靭帯の名称が理解できる					
テキスト	解剖学 改定第2版 医歯薬出版株式会社 ・ プロメテウス 改定第3版 医学書院					
参考文献	イラスト解剖学(中外医学社)、解剖学講義(南山堂)、ネットー解剖学アトラス(南江堂)					
評価基準	筆記試験、授業貢献度					
履修上の注意	予習・復習を十分に行うこと					
備考						

講義計画			成果確認
1	講義内容	骨学総論	質疑応答
	到達目標		
2	講義内容	骨学総論	質疑応答
	到達目標		
3	講義内容	骨学総論	質疑応答
	到達目標		
4	講義内容	骨学総論	質疑応答・小テスト
	到達目標		
5	講義内容	上肢の骨	質疑応答
	到達目標		
6	講義内容	上肢の骨の連結	質疑応答
	到達目標		
7	講義内容	上肢の骨の連結	質疑応答・小テスト
	到達目標		
8	講義内容	下肢の骨	質疑応答
	到達目標		
9	講義内容	下肢の骨の連結	質疑応答
	到達目標		
10	講義内容	下肢の骨の連結	質疑応答・小テスト
	到達目標		
11	講義内容	胸郭の骨	質疑応答
	到達目標		
12	講義内容	椎骨	質疑応答
	到達目標		
13	講義内容	椎骨	質疑応答
	到達目標		
14	講義内容	頭蓋	質疑応答
	到達目標		
15	講義内容	頭蓋	質疑応答・小テスト
	到達目標		

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学Ⅲ<筋学>		講師名	上田 裕一		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	柔道整復師として最低限必要なレベルの筋学を習得する。骨格筋の名称や付着部位を覚える。骨格筋の作用について理解する。					
到達目標	骨格筋の名称が理解できる 骨格筋の起始部、停止部、支配神経が理解できる 骨格筋の作用が理解できる					
テキスト	解剖学 改定第2版 医歯薬出版株式会社 ・ プロメテウス 改定第3版 医学書院					
参考文献	イラスト解剖学(中外医学社)、解剖学講義(南山堂)、ネット一解剖学アトラス(南江堂)					
評価基準	筆記試験、授業貢献度					
履修上の注意	予習・復習を十分に行うこと					
備考						

講義計画			成果確認
1	講義内容	筋の総論	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	筋肉の形態・作用・神経が理解できる	
2	講義内容	上肢の筋(上肢帯)	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
3	講義内容	上肢の筋(自由上肢)	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
4	講義内容	上肢の筋(自由上肢)	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
5	講義内容	上肢の筋(自由上肢)	小テストにて習熟度を確 認
	到達目標	小テストにて要点のおさらいができる	
6	講義内容	下肢の筋(下肢帯)	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
7	講義内容	下肢の筋(下肢帯)	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
8	講義内容	下肢の筋(自由下肢)	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
9	講義内容	下肢の筋(自由下肢)	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
10	講義内容	下肢の筋(自由下肢)	小テストにて習熟度を確 認
	到達目標	小テストにて要点のおさらいができる	
11	講義内容	体幹の筋(腹部)	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
12	講義内容	体幹の筋(胸部)	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
13	講義内容	体幹の筋(背筋)	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
14	講義内容	頸部の筋	授業残り10分で総括しラ ンダムに問題を出して確 認
	到達目標	各部位の理解ができる	
15	講義内容	頭部の筋	小テストにて習熟度を確 認
	到達目標	小テストにて要点のおさらいができる	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位		
科目名	解剖学IV<脈管>		講師名	重吉 康史				
実務内容								
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野			
講義目的	図表や、写真を用いて、名称だけでなく機能も説明することによって理解度を高める。							
到達目標	名称を暗記するだけでなく、実際の配置をイメージでき、その機能を含めて説明できる。							
テキスト	解剖学 改訂版第2版 ／ 医歯薬出版株式会社							
参考文献								
評価基準	筆記試験							
履修上の注意								
備考								

講義計画			成果確認
1 講義内容	概論・総論	終了時の質疑応答	
到達目標	血管の種類、働きを理解する		
2 講義内容	心臓(位置・形態・構造)	終了時の質疑応答	
到達目標	心臓の構造が離開できている		
3 講義内容	刺激伝導系	終了時の質疑応答	
到達目標	刺激伝導系の流れが説明できる		
4 講義内容	肺循環	終了時の質疑応答	
到達目標	肺循環の流れが説明できる		
5 講義内容	大動脈、頭部、頸部の動脈	終了時の質疑応答	
到達目標	血管の走行、分枝を理解する		
6 講義内容	上肢の動脈	終了時の質疑応答	
到達目標	血管の走行、分枝を理解する		
7 講義内容	胸大動脈	終了時の質疑応答	
到達目標	血管の走行、分枝を理解する		
8 講義内容	腹大動脈	終了時の質疑応答	
到達目標	血管の走行、分枝を理解する		
9 講義内容	骨盤部および下肢の動脈	終了時の質疑応答	
到達目標	血管の走行、分枝を理解する		
10 講義内容	頭部および上肢の静脈	終了時の質疑応答	
到達目標	血管の走行、分枝を理解する		
11 講義内容	下大静脈および門脈	終了時の質疑応答	
到達目標	血管の走行、分枝を理解する		
12 講義内容	骨盤部および下肢の静脈	終了時の質疑応答	
到達目標	血管の走行、分枝を理解する		
13 講義内容	胎児循環	終了時の質疑応答	
到達目標	胎児循環の流れを説明できる		
14 講義内容	リンパおよびリンパ本幹	終了時の質疑応答	
到達目標	リンパに役割、走行を理解する		
15 講義内容	リンパ性器官	終了時の質疑応答	
到達目標	付属機関について説明できる		

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学V		講師名	井上敬夫		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	図表、写真を用いて、名称だけでなく機能も説明することによって理解度を高める。 国家試験にも対応できるように過去問の解説も行っていく。					
到達目標	名称を暗記するだけでなく、実際の配置をイメージでき、その機能を含めて説明できる。					
テキスト	解剖学・第3版(医歯薬出版)					
参考文献						
評価基準	試験 80% 小テスト 20%					
履修上の注意	授業時に配付される資料と教科書を毎度持参すること					
備考						

講義計画			成果確認
1 講義内容	消化器総論、口腔		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
2 講義内容	食道、胃		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
3 講義内容	小腸、大腸		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
4 講義内容	肝臓、脾臓		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
5 講義内容	呼吸器総論、鼻腔、副鼻腔		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
6 講義内容	咽頭、喉頭、声帯		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
7 講義内容	気管、気管支、肺		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
8 講義内容	泌尿器総論、腎臓		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
9 講義内容	腎臓、尿管、膀胱、尿道		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
10 講義内容	男性生殖器総論、精巣		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
11 講義内容	精子の形成、精管、前立腺		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
12 講義内容	女性生殖器総論、卵巣		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
13 講義内容	卵子の形成、卵管、子宮		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
14 講義内容	内分泌総論及び各論		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			
15 講義内容	脾臓、リンパ節		講義の最後に小テストを行う。
到達目標			

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学VI<神経>		講師名	重吉 康史	
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	図表、写真を用いて、名称だけでなく既往も説明することによって理解度を高める。				
到達目標	名称を暗記するだけでなく、実際の配置をイメージでき、その機能を含めて説明できる。				
テキスト	解剖学 改訂版第2版／医歯薬出版株式会社				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

講義計画			成果確認
1	講義内容	神経区分と特徴、神経組織	終了時に質疑応答
	到達目標	神経の組織と構造を理解する	
2	講義内容	灰白質、白質と神経節、根 中枢神経区分	終了時に質疑応答
	到達目標	構造を理解する	
3	講義内容	脳室系、髄膜と脳脊髄液	終了時に質疑応答
	到達目標	構造を理解する	
4	講義内容	脳(終脳、間脳)	終了時に質疑応答
	到達目標	構造を理解する	
5	講義内容	脳(中脳、橋、延髄、小脳)	終了時に質疑応答
	到達目標	構造を理解する	
6	講義内容	脊髄(区分)	終了時に質疑応答
	到達目標	構造を理解する	
7	講義内容	脊髄(伝導路)	終了時に質疑応答
	到達目標	構造と伝導路の走行を理解する	
8	講義内容	脳神経① 嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経	終了時に質疑応答
	到達目標	脳神経の働き、支配領域を理解する	
9	講義内容	脳神経② 三叉神経、外転神経、顔面神経、内耳神経	終了時に質疑応答
	到達目標	脳神経の働き、支配領域を理解する	
10	講義内容	脳神経③ 舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経	終了時に質疑応答
	到達目標	脳神経の働き、支配領域を理解する	
11	講義内容	脊髄神経① 脊髄神経後枝、頸神経、腕神経叢	終了時に質疑応答
	到達目標	脊髄神経の走行、支配領域を理解する	
12	講義内容	脊髄神経② 胸、腰、仙骨神経叢	終了時に質疑応答
	到達目標	脊髄神経の走行、支配領域を理解する	
13	講義内容	脊髄神経③ 陰部神経叢、尾骨神経	終了時に質疑応答
	到達目標	脊髄神経の走行、支配領域を理解する	
14	講義内容	自律神経系① 交感神経	終了時に質疑応答
	到達目標	走行と機能を理解する	
15	講義内容	自律神経系② 副交感神経	終了時に質疑応答
	到達目標	走行と標的の器官を理解する。	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学 I		講師名	秋山文宏／武田ひとみ		
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	人体のからだの仕組みを学ぶ。同時に学んでいる解剖学をふまえながら、細胞レベルから、組織、臓器のレベルまでその基本的な働きを学んで、将来病理学や一般臨床医学などの科目の理解につなげることを目的とする。					
到達目標	国家試験で出題される生理学の問題の8~9割を容易に得点できるレベルの知識や理解力に到達できる。					
テキスト	南江堂 生理学 改訂第4版					
参考文献	とくに指定しない					
評価基準	期末試験90% 授業中の小テスト10%					
履修上の注意	授業中のプリントへの書き込みや問題演習など、積極的に参加することが望まれる					
備考	生理学の単位は生理学 I、II、III、IVの4つの単位を取得する必要がある					

講義計画			成果確認
1	講義内容	細胞内小器官と遺伝子、染色体の概説する	授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	細胞内小器官のはたらきと染色体の数などがいえる	
2	講義内容	物質の輸送	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	細胞内外への輸送、チャネルやポンプ、エネルギー通貨のATPを学ぶ	
3	講義内容	血液総論	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	血球の個数や寿命、血漿の成分を学ぶ	
4	講義内容	赤血球の働き	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	赤血球の素材としての鉄、ヘモグロビンを学ぶ	
5	講義内容	止血	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	血液の働きのひとつである、血液凝固のしくみを学ぶ	
6	講義内容	免疫総論	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	自然免疫と獲得免疫、それに関与するリンパ球について学ぶ	
7	講義内容	免疫応用	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	免疫の具体例としてABO血液型とRh血液型不適合を学ぶ	
8	講義内容	内分泌総論	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	ホルモンの一般的な働きとその調節を学ぶ	
9	講義内容	内分泌各論その1(甲状腺ホルモン)	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	甲状腺ホルモンとその働き、そして調節を学ぶ	
10	講義内容	内分泌各論その2(副腎皮質)	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	ミネラルコルチコイド、グルココルチコイドの働きを学ぶ	
11	講義内容	内分泌各論その3(副腎髄質と腎臓)	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	カテコールアミン、グルカゴン、インスリンの働きを学ぶ	
12	講義内容	内分泌各論その4(副甲状腺と下垂体後葉)	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	血中カルシウム調節と下垂体後葉からのホルモンを学ぶ	
13	講義内容	内分泌各論まとめ	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	今まで学んだホルモンを総整理する	
14	講義内容	女性ホルモン概論	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	女性の生殖を学ぶための5つのホルモンについて学ぶ	
15	講義内容	女性の性周期	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	卵巣の卵巣周期、子宮の月経周期とホルモン分泌量の変化を学ぶ	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学Ⅱ		講師名	秋山文宏／武田ひとみ		
			実務経験			
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	人体のからだの仕組みを学ぶ。同時に学んでいる解剖学をふまえながら、細胞レベルから、組織、臓器のレベルまでその基本的な働きを学んで、将来病理学や一般臨床医学などの科目の理解につなげることを目的とする。					
到達目標	国家試験で出題される生理学の問題の8~9割を容易に得点できるレベルの知識や理解力に到達できる。					
テキスト	南江堂 生理学 改訂第4版					
参考文献	とくに指定しない					
評価基準	期末試験90% 授業中の小テスト10%					
履修上の注意	授業中のプリントへの書き込みや問題演習など、積極的に参加することが望まれる					
備考	生理学の単位は生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの4つの単位を取得する必要がある					

講義計画			成果確認
1	講義内容	妊娠	授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	女性の妊娠の仕組みと胎盤の働きについて学ぶ。	
2	講義内容	出産と男性の生殖	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	妊娠週数の数え方、出産と授乳時に働くホルモンを学ぶ。さらに男性の生殖を学び、女性との相違を知る。	
3	講義内容	性の分化	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	いつ、どのようにして男性と女性のからだに違いができるのかを学ぶ。	
4	講義内容	生殖についての総整理	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	女性と男性の生殖について今まで学んだことを再確認する。	
5	講義内容	呼吸の生理	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	肺の収縮、伸展が胸郭の動きによって受動的におこることを学ぶ。	
6	講義内容	換気	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	一回換気量、肺活量などの値をグラフから読み取れるようになる。	
7	講義内容	ヘモグロビンの酸素解離曲線	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	ヘモグロビンと温度やpHなどによるシフトを学ぶ。	
8	講義内容	呼吸中枢	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	自発的な呼吸や呼吸の調節がどこで行われているのかを学ぶ	
9	講義内容	栄養素	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	散大栄養素である糖、タンパク質、脂質の化学的な側面をまなぶ。	
10	講義内容	糖の代謝	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	解糖系、ケン酸回路、電子伝達系の概略を学ぶ	
11	講義内容	脂質の代謝	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	糖から脂質への相互の転換を学ぶ。	
12	講義内容	消化と吸収	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	散大栄養素が体内でどのように消化、吸収されるのかを学ぶ。	
13	講義内容	消化管ホルモン	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	消化器の運動や消化液の分泌の調節をになうホルモンを学ぶ。	
14	講義内容	腎生理の基礎	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	血液をろ過し、尿ができるまでの仕組みを学ぶ。	
15	講義内容	腎にはたらくホルモンとクリアランス	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	尿細管での物質の再吸収と分泌にかかわるホルモンを学ぶ。	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学Ⅲ		講師名	秋山文宏／武田ひとみ		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	人体のからだの仕組みを学ぶ。同時に学んでいる解剖学をふまえながら、細胞レベルから、組織、臓器のレベルまでその基本的な働きを学んで、将来病理学や一般臨床医学などの科目的理解につなげることを目的とする。					
到達目標	国家試験で出題される生理学の問題の8~9割を容易に得点できるレベルの知識や理解力に到達できる。					
テキスト	南江堂 生理学 改訂第4版					
参考文献	とくに指定しない					
評価基準	期末試験90% 授業中の小テスト10%					
履修上の注意	授業中のプリントへの書き込みや問題演習など、積極的に参加することが望まれる					
備考	生理学の単位は生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの4つの単位を取得する必要がある					

講義計画			成果確認
1	講義内容	ニューロン基礎と活動電位	授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	ニューロンの活動電位が生じる仕組みを学ぶ。	
2	講義内容	ニューロンの興奮と伝導	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	全か無かの法則や、神経の興奮がいかにして伝わるかを学ぶ。	
3	講義内容	伝達と神経伝達物質	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	シナプスにおける神経興奮の伝わり方を学ぶ。	
4	講義内容	筋肉総論	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	3つの種類の筋肉、3種類の骨格筋について学ぶ。	
5	講義内容	神経筋接合部と骨格筋の収縮	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	運動神経の興奮から骨格筋の収縮までを学ぶ。	
6	講義内容	筋収縮と筋の聴力と長さ	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	筋肉の収縮時、筋の長さと聴力がどのようにして変化するかを学ぶ。	
7	講義内容	神経解剖学	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	反射などを学ぶために神経の解剖学を復習する。	
8	講義内容	神経伝導路	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	運動や感覚などの伝導路を理解する。	
9	講義内容	筋紡錘	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	反射を理解するための受容器である筋紡錘を学ぶ。	
10	講義内容	反射	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	伸張反射や屈曲反射など、反射の経路と反応を学ぶ。	
11	講義内容	自律神経と反射	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	自律神経が求心路、遠心路に含まれる反射について学ぶ。	
12	講義内容	自律神経の解剖と生理	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	交感神経、副交感神経の違いを解剖や生理から理解する。	
13	講義内容	視覚器	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	眼球の解剖から始まり、視覚の伝導路までを学ぶ。	
14	講義内容	視野と聴覚器の生理	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	視野障害について学び、さらに音を聞く仕組みを学ぶ。	
15	講義内容	嗅覚と味覚	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	嗅覚や味覚の伝導路とその特徴について学ぶ。	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学IV		講師名	秋山文宏／武田ひとみ		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	人体のからだの仕組みを学ぶ。同時に学んでいる解剖学をふまえながら、細胞レベルから、組織、臓器のレベルまでその基本的な働きを学んで、将来病理学や一般臨床医学などの科目の理解につなげることを目的とする。					
到達目標	国家試験で出題される生理学の問題の8~9割を容易に得点できるレベルの知識や理解力に到達できる。					
テキスト	南江堂 生理学 改訂第4版					
参考文献	とくに指定しない					
評価基準	期末試験90% 授業中の小テスト10%					
履修上の注意	授業中のプリントへの書き込みや問題演習など、積極的に参加することが望まれる					
備考	生理学の単位は生理学 I、II、III、IVの4つの単位を取得する必要がある					

講義計画			成果確認
1	講義内容	皮膚の解剖と生理	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	皮膚にある多くの受容器について学ぶ。	
2	講義内容	心臓のマクロ解剖の復習	授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	次回から学ぶ心臓の生理の準備として心臓の解剖を復習する。	
3	講義内容	心電図	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	心電図の波形の形成について学ぶ。	
4	講義内容	不整脈	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	おもに3つの不整脈についておおまかな理解をする。	
5	講義内容	心活動周期	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	心活動周期を時期ごとに何か起きているかを理解する。	
6	講義内容	血管	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	大動脈、細動脈、毛細血管、大静脈の特徴を学ぶ。	
7	講義内容	血圧調節	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	血圧の受容器や血圧調節のための神経を学ぶ。	
8	講義内容	体温①	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	体温の生理的変動、熱産生、熱放散などを学び熱中症の理解につなげる	
9	講義内容	体温②	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	熱放散の調節と発汗のしくみ、うつ熱や気候順化を学ぶ。	
10	講義内容	骨の解剖	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	骨の生理を理解する準備としての骨の解剖を学ぶ。	
11	講義内容	骨の生理	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	骨が蓄えるカルシウムの調節と骨の成長を学ぶ。	
12	講義内容	高齢者の生理学	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	老化にともなっておこるからだの生理学的变化を学ぶ。	
13	講義内容	発育と発達	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	発育曲線の理解と小児期から生検期にかけての生理学的变化を学ぶ。	
14	講義内容	競技者の生理学的特徴と変化	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	トレーニングによる骨、筋、循環器の変化について学ぶ。	
15	講義内容	心臓や体温、骨の総整理	授業前の確認問題、授業後のまとめ問題に取り組む
	到達目標	これまで生理学IVで学んだ範囲の総復習をして試験対策をする。	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位		
科目名	運動学		講師名	青木 孝至				
	実務経験					○		
実務内容	鍼灸整骨院にて柔道整復師、鍼灸師として臨床							
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野			
講義目的	国家試験に向けて運動学の基本的知識を身につける							
到達目標	運動学の基礎知識を身につけ、臨床で生かせるように理解させる							
テキスト	運動学教科書							
参考文献	なし ※独自で参考資料を作成し暗記の手助けをする予定							
評価基準	定期テスト							
履修上の注意								
備考	各单元の終了ごと、小テストを実施。 暗記用の資料を配布。							

講義計画			成果確認
1	講義内容	運動学の目的・身体運動と力学	小テストを実施する
	到達目標	運動の軸と面、ベクトル等がきちんと理解できる	
2	講義内容	身体運動と力学	小テストを実施する
	到達目標	運動のてこ、運動の法則がきちんと理解できる	
3	講義内容	運動器の構造と機能	小テストを実施する
	到達目標	骨・関節・筋の基本的知識を身につける	
4	講義内容	運動学習	小テストを実施する
	到達目標	運動学習や動機付け等、きちんと理解できる	
5	講義内容	確認テスト、姿勢	小テストを実施する
	到達目標	これまでの範囲の理解度を確認テストでチェック。	
6	講義内容	姿勢	小テストを実施する
	到達目標	重心、抗重力筋、機能肢位などがきちんと理解できる	
7	講義内容	神経の構造と機能	小テストを実施する
	到達目標	神経の基本的な構造と機能がきちんと理解できる	
8	講義内容	反射と随意運動	小テストを実施する
	到達目標	運動学に必要な反射のメカニズムがきちんと理解できる	
9	講義内容	運動発達	小テストを実施する
	到達目標	原始反射、全身運動や歩行運動等についてきちんと理解できる	
10	講義内容	上肢の運動	小テストを実施する
	到達目標	肩甲骨、肩、ひじ等の運動がきちんと理解できる	
11	講義内容	確認テスト、体幹の運動	小テストを実施する
	到達目標	これまでの範囲の理解度を確認テストでチェック。	
12	講義内容	下肢の運動	小テストを実施する
	到達目標	股関節、膝関節、足関節の運動がきちんと理解できる	
13	講義内容	歩行	小テストを実施する
	到達目標	歩行周期と運動学的分析がきちんと理解できる	
14	講義内容	歩行	小テストを実施する
	到達目標	歩行と走行の違い、異常歩行について理解できる	
15	講義内容	全範囲の復習	小テストを実施する
	到達目標	確認テストで自己の理解度を把握する	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	衛生学公衆衛生学 I		講師名	晃野真季	
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	健康について人々の健康を増進させるための諸要素と予防の重要性を認識させ 施術に際に医療の倫理と安全の確保についての認識を身に付ける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●欧米・日本の衛生学 公衆衛生学の発展歴史をめぐって、その概念および活動の理解・健康に対する理解および疾病予防・健康管理の理解 ●我が国における衛生行政・医療保障の理解 ●各分野における公衆衛生活動の理解(現状、指摘、対応方法、対策) ●衛生統計の見方とその意義および疫学の理解 				
テキスト	衛生学・公衆衛生学 改定第6版 南江堂				
参考文献	国民衛生動向				
評価基準	筆記試験を基本とし、授業貢献度なども考慮する				
履修上の注意	教科書を持参すること、授業中の私語と携帯電話の使用は禁止すること。				
備考					

講義計画			成果確認
1	講義内容	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動と健康の概念	授業終了後、質疑応答
	到達目標	公衆衛生学の内容への理解	
2	講義内容	衛生統計	授業終了後、質疑応答
	到達目標	健康水準を測る主な指標への理解	
3	講義内容	疾病の予防と健康管理	授業終了後、質疑応答
	到達目標	疾病発生段階への理解から疾病予防の重要性への理解	
4	講義内容	感染症の予防①	授業終了後、質疑応答
	到達目標	感染概念と感染症成り立ち条件への理解	
5	講義内容	感染症予防②	授業終了後、質疑応答
	到達目標	主な感染症と感染症の予防方法への理解	
6	講義内容	消毒	授業終了後、質疑応答
	到達目標	消毒の意義と臨床応用への理解	
7	講義内容	環境衛生①	授業終了後、質疑応答
	到達目標	環境と健康との関係への理解	
8	講義内容	環境衛生②	授業終了後、質疑応答
	到達目標	様々な自然環境要因による健康問題への理解	
9	講義内容	生活環境・食品衛生活動	授業終了後、質疑応答
	到達目標	生活環境の諸要因による健康問題への理解	
10	講義内容	ヒトを対象とする保健活動①(母子・学校・産業・成人・老人・保健・精神)	授業終了後、質疑応答
	到達目標	人を対象とする諸保健活動への理解	
11	講義内容	ヒトを対象とする保健活動②(母子・学校・産業・成人・老人・保健・精神)	授業終了後、質疑応答
	到達目標	人を対象とする諸保健活動への理解	
12	講義内容	ヒトを対象とする保健活動③(母子・学校・産業・成人・老人・保健・精神)	授業終了後、質疑応答
	到達目標	人を対象とする諸保健活動への理解	
13	講義内容	地域保健と国際保健	授業終了後、質疑応答
	到達目標	地域保健活動と国際保健活動の重要性への理解	
14	講義内容	衛生行政と保健医療の制度と医療の倫理と安全の確保	授業終了後、質疑応答
	到達目標	我が国の衛生行政、医療制度への理解。医療倫理と安全への理解	
15	講義内容	疫学	授業終了後、質疑応答
	到達目標	疫学の研究方法への理解	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	柔道 I		講師名	中村 義毅		
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/>					
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床、柔道有段者として柔道を指導					
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	柔道実技を通じて、自らの心身のすこやかな成長をねらうと共に、身体の仕組みを学び、理解させる。					
到達目標	礼儀・礼節の習得と基礎運動、柔道実技での受身動作を習得する。					
テキスト						
参考文献						
評価基準	実技評価試験					
履修上の注意	出席率4／5以上					
備考	柔道着着用					

講義計画			成果確認
1	講義内容	体操、前転後転等準備体操、後受身、横受身等の練習	
	到達目標	前転がスムーズにできる。	
2	講義内容	体操、前転後転等準備体操、後受身、横受身等の練習	
	到達目標	後転がスムーズにできる。	
3	講義内容	体操、後受身、横受身、前回り受身の説明と練習	
	到達目標	受身の時に畳をたたくことができる。	
4	講義内容	柔道着の着方の説明 前回り受身の練習(右)	
	到達目標	受身の時に畳をたたくことができる。	
5	講義内容	前回り受身(右)が出来るようになる 左前回り受身の練習	
	到達目標	受身の時に畳をたたくことができる。	
6	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 立礼、坐礼の説明、練習	
	到達目標	正しい立礼ができる。	
7	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 背負い投げの技の説明、練習	
	到達目標	正しい座礼ができる。	
8	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 背負い投げの練習(打込)	
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
9	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 背負い投げの練習(打込)	
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
10	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 背負い投げの練習(打込と投込)	
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
11	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 体落しの技の説明、練習	
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
12	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 体落しの練習(打込)	
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
13	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 体落しの練習(打込と投込)	
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
14	講義内容	テストに向けて、前回り受身の練習 礼法の練習 打込投込の練習	
	到達目標	礼法、受身、投げ技がすべて行える。	
15	講義内容	テストに向けて、前回り受身の練習 礼法の練習 打込投込の練習	
	到達目標	礼法、受身、投げ技がすべて正しく行える。	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	柔道 II		講師名	中村 義毅		
実務経験	○					
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	柔道実技を通じて、自らの心身のすこやかな成長をねらうと共に、身体の仕組みを学び、理解させる。					
到達目標	礼儀・礼節の習得と基礎運動、柔道実技での受身動作を習得する。背負投などの技をクラスメイトと共に修得することで、柔道の楽しさを理解する。					
テキスト	昇段審査のための柔道の形入門(大泉書店)					
参考文献						
評価基準	実技評価試験					
履修上の注意	出席率4／5以上					
備考	柔道着着用					

講義計画			成果確認
1	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 扱い腰の技の説明、練習	右・左の受身ともバランス良くできる。
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
2	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 扱い腰の練習(打込)	右・左の受身ともバランス良くできる。
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
3	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 扱い腰の練習(打込と投込)	右・左の受身ともバランス良くできる。
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
4	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 扱い腰の練習(打込と投込)	右・左の受身ともバランス良くできる。
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
5	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 寝技押込みの説明と練習	抑え込み技の姿勢がとれる
	到達目標	抑え込み技が理解できる。	
6	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 寝技押込みの説明と練習	抑え込み技の姿勢がとれる
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
7	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 大外刈りの技の説明、練習	投げる際、相手を大きく崩すことができる。
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
8	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 大外刈りの練習(打込)	投げる際、相手を大きく崩すことができる。
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
9	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 大外刈りの練習(打込と投込)	投げる際、相手を大きく崩すことができる。
	到達目標	投げられても受身が取れる。	
10	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 大外刈りの練習(打込と投込)	投げる際、相手を大きく崩すことができる。
	到達目標	投げられても正しい姿勢で受身がとれる。	
11	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 連絡技の説明と練習(大内刈り・小内刈り)	受・取の呼吸が合い、スマーズな動きができる
	到達目標	繰り返しでの投げ合いができる。	
12	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 連絡技の練習(大内刈り・小内刈り)	受・取の呼吸が合い、スマーズな動きができる
	到達目標	繰り返しでの投げ合いができる。	
13	講義内容	前回り受身(右・左)の練習 連絡技 → 約束乱取の練習	受・取の呼吸が合い、スマーズな動きができる
	到達目標	繰り返しでの投げ合いができる。	
14	講義内容	テストに向けて、前回り受身の練習 礼法の練習 約束乱取の練習	試験内容と動きを理解する。
	到達目標	試験内容をすべて理解し、正しく動くことができる。	
15	講義内容	テストに向けて、前回り受身の練習 礼法の練習 約束乱取の練習	試験内容と動きを理解する。
	到達目標	試験内容をすべて理解し、正しく動くことができる。	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復総論 I		講師名	竹内 希美子	
実務内容	医療法人クリニックにて柔道整復師として勤務				
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	柔道整復学の基礎となる科目で、骨折の概説から症状や、合併症などについて学習する。 柔道整復学各論に向けての基礎知識を身につけることを目的としている。				
到達目標	柔道整復師として、骨折の対する的確な判断・施術に繋がる知識が説明できる。				
テキスト	柔道整復学 理論編 第7版 全国柔道整復学校協会監修／南江堂				
参考文献	柔道整復外傷学ハンドブック総論 第2版／医道の日本社				
評価基準	出席率3分の2以上を満たしていることが条件 定期試験70点、小テスト20点、提出物10点の合計100点で評価する。				
履修上の注意	毎時限、教科書と配布資料を持参すること 欠席等で資料がない場合は次の授業までに取りに来ること 授業の妨げになるような行為は、退室してもらう可能性もある				
備考					

講義計画			成果確認
1	講義内容	柔道整復術および柔道整復師の沿革、業務範囲とその心得	小テストにて確認
	到達目標	柔道整復師の業務範囲が説明できる	
2	講義内容	柔道整復術とは・人体に加わる力・損傷に関する身体の基礎的状態・損傷に加わる力	小テストにて確認
	到達目標	身体に加わる力の種類が説明できる	
3	講義内容	骨損傷の概説、骨の性状による分類	小テストにて確認
	到達目標	骨損傷の定義が説明できる 病的骨折の誘因疾患が説明できる	
4	講義内容	骨折線の方向による分類、骨折線の数による分類	小テストにて確認
	到達目標	分類別に骨折の種類が説明できる	
5	講義内容	外力の働き方による分類、骨の部位・経過による分類	小テストにて確認
	到達目標	分類別に骨折の種類が説明できる	
6	講義内容	骨折の症状(局所症状、全身症状、固有症状)	小テストにて確認
	到達目標	一般外傷症状と固有症状の違いが説明できる	
7	講義内容	骨折の合併症①	小テストにて確認
	到達目標	骨折に7起こる合併症が説明できる	
8	講義内容	骨折の合併症②	小テストにて確認
	到達目標	骨折に起こる合併症が説明できる	
9	講義内容	骨折の合併症③	小テストにて確認
	到達目標	骨折に起こる合併症が説明できる	
10	講義内容	小児骨折、高齢者骨折の特徴①	小テストにて確認
	到達目標	小児と青壮年の骨折の違いが説明できる	
11	講義内容	小児骨折、高齢者骨折の特徴②	小テストにて確認
	到達目標	高齢者と青壮年の骨折の違いが説明できる	
12	講義内容	骨折の癒合日数	小テストにて確認
	到達目標	各部位の癒合にかかる日数が説明できる	
13	講義内容	骨折の予後	小テストにて確認
	到達目標	骨折後に考えられる予後が説明できる	
14	講義内容	骨折の治癒に影響を与える因子	小テストにて確認
	到達目標	骨折に影響を与える因子について列挙できる	
15	講義内容	総まとめ確認小テスト	小テストにて確認
	到達目標	総復習として知識の定着が出来ている	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位		
科目名	柔道整復総論 II		講師名	竹内 希美子			
	実務経験						
実務内容	医療法人クリニックにて柔道整復師として勤務						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野		
講義目的	関節および軟部組織の基礎的な構造を理解し、各組織の損傷について学ぶ。 問診、視診などの診察の基礎や施術録の記載、患者の指導管理について学ぶ。						
到達目標	捻挫、脱臼の関節損傷の基礎的な損傷の仕組みが説明できる。 軟部組織損傷の発生、症状、損傷度が説明できる。 問診、視診などの診察の基礎や施術録の記載、患者の指導管理など現場での基礎知識を身に付ける。						
テキスト	柔道整復学 理論編 第7版 全国柔道整復学校協会監修／南江堂						
参考文献	柔道整復外傷学ハンドブック総論 第2版／医道の日本社						
評価基準	出席率3分の2以上を満たしていることが条件 定期試験70点、小テスト20点、提出物10点の合計100点で評価する。						
履修上の注意	毎時限、教科書と配布資料を持参すること。 欠席等で資料がない場合は次の授業までに取りに来ること。 授業の妨げになるような行為は、退室してもらう可能性もある。						
備考							

講義計画			成果確認
1	講義内容	関節の損傷①(捻挫)	小テストにて確認
	到達目標	関節の構造を理解し、怪我の発生が説明できる	
2	講義内容	関節の損傷②(捻挫)	小テストにて確認
	到達目標	関節の構造を理解し、怪我の発生が説明できる	
3	講義内容	関節の損傷③(脱臼)	小テストにて確認
	到達目標	脱臼の種類、発生機序が説明できる	
4	講義内容	関節の損傷④(脱臼)	小テストにて確認
	到達目標	脱臼の症状が説明できる	
5	講義内容	筋の損傷	小テストにて確認
	到達目標	打撲、挫傷などの違いが説明できる	
6	講義内容	腱の損傷	小テストにて確認
	到達目標	腱損傷の程度による症状の違いが説明できる	
7	講義内容	血管、末梢神経の損傷	小テストにて確認
	到達目標	症状が説明できる	
8	講義内容	診察の手順、治療計画、施術録の扱い	小テストにて確認
	到達目標	診察の手順が説明できる	
9	講義内容	治療法①(整復法)	小テストにて確認
	到達目標	骨折・脱臼の整復法の種類が説明できる	
10	講義内容	治療法②(固定法)	小テストにて確認
	到達目標	固定の種類、用途が説明できる	
11	講義内容	治療法③(手技療法、運動療法)	小テストにて確認
	到達目標	基本の手技、運動療法が説明できる	
12	講義内容	治療法④(後療法)	小テストにて確認
	到達目標	後療法の種類が説明できる	
13	講義内容	治療法⑤(指導管理)	小テストにて確認
	到達目標	指導管理の意味を理解する	
14	講義内容	治療法⑥(指導管理)	小テストにて確認
	到達目標	指導管理の意味を理解する	
15	講義内容	総まとめ確認小テスト	小テストにて確認
	到達目標	総復習として知識の定着が出来ている	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復各論 I		講師名	伊黒 浩二		
			実務経験	○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	柔道整復師が施術を行う際、患者や患部の状態を把握するために診察(評価)が必要である。 本講義では評価の考え方と基本的な方法について学ぶ。					
到達目標	①評価について理解する。 ②評価に必要な基礎的な知識を習得する。 ③基礎的な評価技術を習得する。					
テキスト	柔道整復学 理論編 第7版 全国柔道整復学校協会／南江堂					
参考文献	図解入門メディカルワークシリーズ よくわかる理学療法の検査・測定・評価／秀和システム					
評価基準	記述式評価試験50% 実技評価試験50%					
履修上の注意	授業時に配布する資料をファイリングして毎回持参すること					
備考						

講義計画			成果確認
1	講義内容	評価について 評価に必要な用語	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	評価の必要性を理解し、必要な用語を理解する。	
2	講義内容	関節可動域測定(ROM)総論 骨指標(ランドマーク)の触知	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	ROMを理解し、必要な骨指標の触知を習得する。	
3	講義内容	関節可動域測定(ROM)(上肢)	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	上肢の基本的なROM測定を習得する。	
4	講義内容	関節可動域測定(ROM)(下肢①)	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	下肢の基本的なROM測定を習得する。	
5	講義内容	関節可動域測定(ROM)の復習・練習	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	ROM測定の技術を習得する。	
6	講義内容	腱反射①	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	腱反射を理解し、基本的な手法を習得する。	
7	講義内容	腱反射②、触覚(知覚)検査	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	腱反射と触覚検査を理解し、基本的な手法を習得する。	
8	講義内容	徒手筋力検査	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	徒手筋力検査を理解し、基本的な手法を習得する。	
9	講義内容	腱反射、知覚検査、MMTの復習・練習	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	各種測定の技術を習得する。	
10	講義内容	四肢の計測、その他の特殊な計測	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	四肢の計測他を理解し、基本的な手法を習得する。	
11	講義内容	評価の進め方	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	評価の進め方を理解する。	
12	講義内容	復習・練習①	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	各種評価方法を習得する。	
13	講義内容	復習・練習②	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	各種評価方法を習得する。	
14	講義内容	復習・練習③	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	各種評価方法を習得する。	
15	講義内容	実技試験	
	到達目標	各種評価方法を習得する。	

2025(令和7) 年度 講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復各論 II		講師名	齊藤 雅子	
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	医療現場において必要な診察に関する知識や技術、患者への対応方法などについて理解し、習得する				
到達目標	医療面接や各種検査についての概論を理解する。 各種検査の実施方法や患者への対応方法を習得し、実践できる。				
テキスト	柔道整復学 理論編 改訂第7版(南江堂) 一般臨床医学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献					
評価基準	評価試験(40%) 課題提出(30%) 演習等における技術の習得状況など(20%) 授業内容等に関する参加状況(10%)				
履修上の注意	授業に積極的に参加しよう				
備考					

講義計画			成果確認
1	講義内容	診察概論①(診察とは)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	診察についての理解を深める	
2	講義内容	診察概論②(診察の進め方、評価と記録 など)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	診察の進め方、評価や記録の仕方について理解する	
3	講義内容	医療面接①(意義、方法、基本事項と進め方 など)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	医療面接の基本事項や進め方を理解する	
4	講義内容	医療面接②(演習)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	医療面接において適切な情報を得ることができる	
5	講義内容	生命徵候(体温、血圧、脈拍、呼吸 など)	授業内・外における課題の提出で確認
	到達目標	生命徵候の種類と測定方法を理解する	
6	講義内容	視診①(意義、方法 など)	授業内・外における課題の提出で確認
	到達目標	視診の方法と観察すべき事項について理解する	
7	講義内容	視診②(演習)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	自分自身の注視点や認知について認識する	
8	講義内容	触診①(意義、方法、筋肉・骨・関節の触診 など)	授業内・外における課題の提出で確認
	到達目標	触診の方法と注意点について理解する	
9	講義内容	触診②(演習)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	触診を「する側」と「される側」の捉え方について認識する	
10	講義内容	形態測定①(定義、目的・注意・確認・原則、種類と測定方法 など)	授業内・外における課題の提出で確認
	到達目標	形態測定の目的や注意事項、種類、測定方法について理解する	
11	講義内容	形態測定②(演習)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	検査の方法やランドマークについて認識する	
12	講義内容	感覚検査①(感覚とは、感覚の種類、検査方法 など)	授業内・外における課題の提出で確認
	到達目標	感覚の種類、検査方法、評価方法について理解する	
13	講義内容	感覚検査②(演習)	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	検査の方法や刺激量と反応について認識する	
14	講義内容	インフォームドコンセント、患者への説明の仕方 など	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	インフォームドコンセントについて理解する	
15	講義内容	まとめ	授業内における課題の提出で確認
	到達目標	診察概論についての振り返り	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復臨床演習 V		講師名	西 正人	
実務経験	○				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	解剖学(特に神経、感覚器)の復習を行いながら、専門職として物理療法機器を適切に使用するという意識を持たせるようにする。				
到達目標	リスクマネジメントの実践				
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編				
参考文献					
評価基準	評価試験80%、小テスト20%				
履修上の注意					
備考	小テストを1回実施する。				

講義計画			成果確認
1	講義内容	神経学の解剖学①(神経細胞、脳)	小テスト
	到達目標	神経の働きを理解する。	
2	講義内容	神経学の解剖学②(脊髄、伝導路)	小テスト
	到達目標	伝導路を理解する。	
3	講義内容	痛みの基礎①(痛みの種類、痛みのメカニズム)	小テスト
	到達目標	痛みのメカニズムを理解する。	
4	講義内容	痛みの基礎②(急性痛と慢性痛、痛みの評価、アプローチ)	小テスト
	到達目標	痛みの評価を理解する。	
5	講義内容	柔道整復師の治療法(整復法、固定法、後療法)	小テスト
	到達目標	治療法について理解する。	
6	講義内容	柔道整復師の後療法(手技療法、運動療法、物理療法)	小テスト
	到達目標	後療法について理解する。	
7	講義内容	物理療法①(分類、安全対策)	小テスト
	到達目標	物理療法の分類を理解する。	
8	講義内容	物理療法②(電気療法 — 低周波療法、中周波療法)	小テスト
	到達目標	電気療法を理解する。	
9	講義内容	物理療法③(電気療法 — 実技体感)	小テスト
	到達目標	電気療法を体感する。	
10	講義内容	物理療法④(温熱療法 — 伝導熱、輻射熱、変換熱療法)	小テスト
	到達目標	温熱療法を理解する。	
11	講義内容	物理療法⑤(温熱療法 — 実技体感)	小テスト
	到達目標	温熱療法を体感する。	
12	講義内容	物理療法⑥(光線療法、寒冷療法)	小テスト
	到達目標	光線療法、寒冷療法を理解する。	
13	講義内容	物理療法⑦(光線療法、寒冷療法 — 体感実技)	小テスト
	到達目標	光線療法、寒冷療法を体感する。	
14	講義内容	物理療法⑧(牽引療法、その他)	小テスト
	到達目標	牽引療法を理解する。	
15	講義内容	物理療法⑨(牽引療法、その他 — 体感実技)	小テスト
	到達目標	牽引療法、その他の機器を体感する。	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	基礎包帯固定法		講師名	篠浦 達智		
実務内容						
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	包帯固定の基礎となる巻軸包帯を用い、包帯固定実技を行う。 固定の目的や材料の違いを理解し、対象部位へ基本包帯が巻けるようになることを目的とする。					
到達目標	対象部位によって包帯法を使い分け、目的に沿って正確に包帯を巻くことができる。					
テキスト	包帯固定学 改訂第2版(南江堂)					
参考文献						
評価基準	実技評価試験70% 実技チェックシート20% ノート提出10%					
履修上の注意	出席率4/5以上					
備考	配布した包帯を必ず持参。白衣着用					

講義計画			成果確認
1	講義内容	基本包帯概論(固定・包帯の定義について)	練習問題により確認
	到達目標	定義を理解する	
2	講義内容	総論及び基本包帯(理論と実技:環行帯・螺旋帯・折転帯)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	折転帯を理解する	
3	講義内容	前腕部・下腿部の包帯(理論と実技:折転帯)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	折転帯が巻ける	
4	講義内容	肘・膝関節の包帯(理論と実技:亀甲帯(離開・集合))	実技チェックシートにより確認
	到達目標	亀甲帯が巻ける	
5	講義内容	肩関節の包帯(理論と実技:麦穂帯(上行・下行))①	実技チェックシートにより確認
	到達目標	麦穂帯を理解できる	
6	講義内容	肩関節の包帯(理論と実技:麦穂帯(上行・下行))②	実技チェックシートにより確認
	到達目標	麦穂帯が巻ける	
7	講義内容	手関節の包帯(理論と実技:麦穂帯(上行・下行))及び前腕部・肘関節部の包帯①	実技チェックシートにより確認
	到達目標	手関節麦穂帯が巻ける	
8	講義内容	手関節の包帯(理論と実技:麦穂帯(上行・下行))及び前腕部・肘関節部の包帯②	実技チェックシートにより確認
	到達目標	手関節から肘部までの包帯が巻ける	
9	講義内容	足関節の包帯(麦穂帯(上行・下行)・三節帯・亀甲帯)及び下腿部・膝関節部の包帯①	実技チェックシートにより確認
	到達目標	足関節の包帯が巻ける	
10	講義内容	足関節の包帯(麦穂帯(上行・下行)・三節帯・亀甲帯)及び下腿部・膝関節部の包帯②	実技チェックシートにより確認
	到達目標	足関節から膝部までの包帯が巻ける	
11	講義内容	手指・足趾の包帯(理論と実技:麦穂帯・包裹帯)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	包裹帯が巻ける	
12	講義内容	肩関節から肘関節までの包帯	実技チェックシートにより確認
	到達目標	各種包帯法を用いて患部が巻ける。	
13	講義内容	手関節から肘関節までの包帯	実技チェックシートにより確認
	到達目標	各種包帯法を用いて患部が巻ける。	
14	講義内容	足関節から膝関節までの包帯	実技チェックシートにより確認
	到達目標	各種包帯法を用いて患部が巻ける。	
15	講義内容	これまで習った包帯法の復習	実技チェックシートにより確認
	到達目標	履修の合格点に達する技術を習得する。	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	包帯固定学 I		講師名	篠浦 達智		
実務内容						
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的 基礎包帯固定法で学んだ技術を活かし、冠名包帯など応用包帯法を活用できるようにする。						
到達目標	応用技術となる冠名包帯法を習得することで、外傷の症状等に合わせた包帯法の選択(三角巾等を含む)ができる。また、適切な走行や圧力で包帯を患部に巻くことができる。					
テキスト	包帯固定学 改訂第2版(南江堂)					
参考文献						
評価基準	実技評価試験70% 実技チェックシート20% ノート提出10%					
履修上の注意	出席率4／5以上					
備考	配布した包帯を必ず持参。白衣着用					

講義計画			成果確認
1	講義内容	三角巾の使用方法(理論と実技:提肘)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	定義の理解、提肘技法を覚える	
2	講義内容	三角巾で使用方法(実技:頸、頭部)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	頸、頭部三角巾を覚える	
3	講義内容	冠名包帯(デゾー氏包帯、理論)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	冠名包帯の理解折転帯が巻ける	
4	講義内容	冠名包帯(デゾー氏包帯、実技:第Ⅰ帶・第Ⅱ帶)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	固定の目的を理解する	
5	講義内容	冠名包帯(デゾー氏包帯、実技:第Ⅲ帶・第Ⅳ帶)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	固定の目的を理解する	
6	講義内容	冠名包帯(実技:ウェルボーエルボー包帯・右)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	包帯の走行を覚える	
7	講義内容	冠名包帯(実技:ウェルボーエルボー包帯・左)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	包帯の走行を覚える	
8	講義内容	冠名包帯(実技:ジュール包帯・右)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	包帯の走行を覚える	
9	講義内容	冠名包帯(実技:ジュール包帯・左)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	包帯の走行を覚える	
10	講義内容	体幹部の包帯(理論と実技:晒包帯)	実技チェックシートにより確認
	到達目標	晒の用途、性能を理解する。	
11	講義内容	クラーメル副子固定	実技チェックシートにより確認
	到達目標	様々な包帯技法を用いることができる	
12	講義内容	ギプス固定及びシャーレ作成①	実技チェックシートにより確認
	到達目標	素早くギプスが巻ける	
13	講義内容	ギプス固定及びシャーレ作成②	実技チェックシートにより確認
	到達目標	素早くシャーレを形成できる。	
14	講義内容	これまで習った包帯法の復習①	実技チェックシートにより確認
	到達目標	それぞれの包帯法が巻ける	
15	講義内容	これまで習った包帯法の復習②	実技チェックシートにより確認
	到達目標	それぞれの包帯法が正しく巻ける	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	包帯固定学Ⅱ		講師名	伊黒 浩二		
			実務経験	○		
実務内容	接骨院開業 柔道整復師として臨床					
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	柔道整復術の根幹である固定法について、包帯と硬性材料を用いた方法やテープを用いた関節固定法を学ぶ。					
到達目標	①テープや硬性材料の使用に関する理論を理解する。 ②各関節の包帯固定や基本的なテープを実施ができる。					
テキスト	包帯固定学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会／南江堂					
参考文献	アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 予防とコンディショニング 第1版 公益財団法人日本スポーツ協会					
評価基準	実技評価試験100%					
履修上の注意	授業時に配布する資料をファイリングして毎回持参すること					
備考						

講義計画			成果確認
1	講義内容	前腕・手関節の基本包帯法(復習)	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	前腕・手関節の基本包帯法を習得する。	
2	講義内容	前腕シーネを用いた手関節の固定①	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	前腕シーネのモデリングと包帯法を習得する。	
3	講義内容	前腕シーネを用いた手関節の固定②	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	前腕シーネのモデリングと包帯法を習得する。	
4	講義内容	テープ総論・基本テクニック 手関節のテープ法①	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	テープの基本的な理論と技術を習得する。	
5	講義内容	手関節のテープ法②	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	手関節のテープ方法を習得する。	
6	講義内容	下腿・足関節の基本包帯法(復習)	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	下腿・足関節の基本包帯法を習得する。	
7	講義内容	下腿シーネを用いた足関節の固定①	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	下腿シーネのモデリングと包帯法を習得する。	
8	講義内容	下腿シーネを用いた足関節の固定②	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	下腿シーネのモデリングと包帯法を習得する。	
9	講義内容	足関節のブライトンシーネ固定	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	ブライトンシーネの作成と包帯法を習得する。	
10	講義内容	足関節のテープ法①	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	足関節のテープ方法を習得する。	
11	講義内容	足関節のテープ法②	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	足関節のテープ方法を習得する。	
12	講義内容	足関節のテープ法③	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	足関節のテープ方法を習得する。	
13	講義内容	復習・練習①	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	各種固定法を習得する。	
14	講義内容	復習・練習②	翌週の授業時に小テストなどで理解度を確認
	到達目標	各種固定法を習得する。	
15	講義内容	練習・実技試験	
	到達目標	各種固定法を習得する。	

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	基礎見学実習		講師名	福田 学	
			実務経験	○	
実務内容	接骨院にて柔道整復師とし臨床 福田整骨院 院長				
講義形態	実習	学期	通年	分野	専門分野
講義目的	接骨院運営の全体像を見学し、社会的役割を理解する インフォームドコンセントと患者同意の理解				
到達目標	来院する患者に対し、医療提要側と医療サービスを受ける患者側のそれぞれの理想的関係を説明することができる。また、接骨院運営に必要なハード、ソフト、システムを理解、説明することができ、患者との対人関係において、相応と態度が取れる。				
テキスト					
参考文献					
評価基準	実習簿の内容評価 50% 終了後口述面接 50%				
履修上の注意	100%の出席を要する				
備考	履修内容:柔道整復師の資格を持つ、院長や他の資格者が患者に対してどうのような医療サービスをていきようしているかを見学する。治療や接骨院運営にあんする質問を行い、知的好奇心を引き出す。課題を提供し、デイリーノート(実習簿)や口述において発表させる、インフォームドコンセントと患者同意の対応の重要性を認識させ、観察させる。				

講義計画			成果確認
1 講義内容	施設運営の見学		実習簿とフィードバック
到達目標			
2 講義内容	施設運営の理解		実習簿とフィードバック
到達目標			
3 講義内容	保健制度の概要を見識する		実習簿とフィードバック
到達目標			
4 講義内容	保健制度の概要を理解する		実習簿とフィードバック
到達目標			
5 講義内容	患者観察法の見学		実習簿とフィードバック
到達目標			
6 講義内容	患者観察法の理解		実習簿とフィードバック
到達目標			
7 講義内容	患者対応法の見学		実習簿とフィードバック
到達目標			
8 講義内容	患者対応法の理解		実習簿とフィードバック
到達目標			
9 講義内容	医療介護誘導の見学		実習簿とフィードバック
到達目標			
10 講義内容	医療介護誘導の理解		実習簿とフィードバック
到達目標			
11 講義内容	多職種連携の見学、理解		実習簿とフィードバック
到達目標			
12 講義内容	救急外傷患者への対応の見学		実習簿とフィードバック
到達目標			
13 講義内容	救急外傷患者への対応の理解		実習簿とフィードバック
到達目標			
14 講義内容	対象疾患適用外患者への対応の見学と理解		実習簿とフィードバック
到達目標			
15 講義内容	インフォームドコンセントと患者同意の観察と理解		実習簿とフィードバック
到達目標			

2025(令和7) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	基礎体験実習		講師名	辻井 宏昭	
実務内容					
講義形態	実習	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	医療材料や機器などの対応を体験し、理解をする。 患者誘導や安全領域での施術補助を体験し、理解を深める。				
到達目標	医療材料や機器に接触することにより、機能と効果を理解する。 患者誘導や対応時のリスクマネジメントの重要性を認識し、患者安全、医療安全への行動理解ができる。				
テキスト	なし(必要資料を適時配布)				
参考文献	柔道整復理論書、社会保障制度と柔道整復の職業倫理、関係法規				
評価基準	実習簿の内容評価(50%)、巡回指導時の口述評価及び指導者評(50%)				
履修上の注意	100%の出席を要する				
備考	履修内容:実際に患者誘導や対応の補助、観察を行う。 指導者の指示で医療材料、機器など対応、補助を行う。				

講義計画			成果確認
1	講義内容	医療材料、医療機器等の機能の理解	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
2	講義内容	医療材料、医療機器等の役割と効果の離隔	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
3	講義内容	患者観察、誘導補助の実践	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
4	講義内容	患者支援行動の実践	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
5	講義内容	患者への具体的な対応の見学とその補助	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
6	講義内容	患者への具体的な医療サービス提供の見学とその補助	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
7	講義内容	施術録作成の見学と理解①	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
8	講義内容	施術録作成の見学と理解②	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
9	講義内容	患者安全と医療安全の徹底と具体的行動①	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
10	講義内容	患者安全と医療安全の徹底と具体的行動②	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
11	講義内容	インフォームドコンセントと患者同意説明の観察①	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
12	講義内容	インフォームドコンセントと患者同意説明の観察②	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
13	講義内容	施術現場における多職種連携の理解	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
14	講義内容	施術現場における多職種連携の実践	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		
15	講義内容	施術現場における指導管理上の留意点	実習記録簿への記載およびフィードバック
	到達目標		